

## 「施策」総括票

施策展開	1-(6)-イ	花と緑あふれる県土の形成
施策	① 県民一体となった全島緑化の推進	
対応する 主な課題	○森林、都市緑化、公園緑化など緑化の対象は広範囲に及ぶため、行政のみならず、地域住民、企業等との協働による県民一体となった緑化の推進が必要である。	
関係部等	農林水産部	

### I 主な取組の推進状況 (Plan・Do)

(単位:千円)

平成24年度				
主な取組		決算見込額	推進状況	活動概要
1	全島みどりと花いっぱい運動事業	9,835	順調	○沖縄県全島緑化県民運動推進会議(2月)を開催するとともに、地域住民や学校・自治会等の団体と協働し、県民一体となった緑化活動を行った。(1)
2	グリーン・コミュニティ支援事業	57,817	順調	○苗木の生産や配布、緑化に関する指導コンサルティング、普及啓発、ニーズ等調査を行った。また苗生産業者等で非正規労働者、中高年齢者を雇い入れることで、雇用機会の創出を図った。(2)
3	緑化推進費	5,212	順調	

### II 成果指標の達成状況 (Do)

#### (1) 成果指標

1	成果指標名	基準値	現状値	H28目標値	改善幅	全国の現状
	状況説明	県民による緑化活動件数	55件 (23年度)	68件 (24年度)	増加	13件
	当該主な取り組みに係る普及啓発や緑化活動の効果により、緑化活動件数は増加したものと考えられる。今後も継続的な支援に努めて、県民による緑化活動件数を増加させていく計画である。					

成果指標名		基準値	現状値	H28目標値	改善幅	全国の現状
2	森林緑地面積	118,814ha (23年)	—	120,596ha	—	35,443,660ha (23年)
	状況説明	森林緑地面積は、環境省が約5年間隔で実施する自然環境保全基礎調査(GISデータ)を元に県が独自に数値化した面積である。次回の更新は平成28年頃となるが、植樹祭や育樹活動などの取り組みを推進していることから一定の効果があるものと見込んでいる。 ※面積「全国の現状」は、林野庁の森林・林業白書による「森林面積と人工林面積」を合算した数値を参考までに掲載する				

## (2)参考データ

参考データ名	沖縄県の現状			傾向	全国の現状
沖縄県植樹祭 参加者数	豊見城市 約700名 (22年)	大宜味村 約500名 (23年)	与那原町 約600名 (24年)	→	全国植樹祭 約12600名 (24年)

## Ⅲ 内部要因の分析 (Check)

・県土緑化の重要性を普及啓発するための重要なイベントである県植樹祭の開催にあたっては、適地選定や財政上の理由から開催地となる候補市町村の選定に苦慮しているため、今後の植樹祭のあり方について検討する必要がある。

## Ⅳ 外部環境の分析 (Check)

・全島みどりと花いっぱい運動事業は平成23年度から平成25年度までの事業となっている。しかし、地域住民の交流促進や学校・地域の自主活動に役立っている等、県民からの事業継続の要望が強い  
・グリーン・コミュニティ支援事業は単年度事業であり、また事業対象である苗が短期間で生産できる草花類に限定されているため数ヶ月で枯れてしまうなど、長期的な取組が難しい。沖縄県全島緑化県民運動推進会議で提唱する「100年先を見据えた緑づくり」を地域・県民が自主的に取り組むためにも、新たな交付金による事業の推進や、庁内関係部局と連携した取組の検討が必要である。

## Ⅴ 施策の推進戦略案 (Action)

・全島みどりと花いっぱい運動事業は今年度までの事業であるが、県民からの事業継続の要望が強いため、平成26年度以降については新たに緑化人材育成等を行うことで継続的な緑化活動を図る。  
・グリーン・コミュニティ支援事業は緊急雇用創出臨時特例交付金事業のほか、他の交付金を活用した事業推進を検討するとともに、対象となる苗も亜熱帯沖縄の特徴を生かした花木や香木を加える。また、全庁的な情報共有を図り他部局と連携した緑化活動を推進する。  
・県植樹祭の開催地検討委員会において、平成26年以降の開催地を検討にあたっては都市化の進展に伴う新規開校する学校で行うなど緑化の普及啓発を考慮した選定を行うとともに、今後の植樹祭のあり方についても開催方法などの検討を行う。